

養 氣 軒

ようきけん

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

109 | 在宅支援の取り組み

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。



-IN-HOME SUPPORT-

外来・病棟連携による在宅支援の取り組み

当院では、病棟から「在宅支援介入依頼」を受け、外来看護師が患者さんの外来受診時にご自宅の状況をお伺いしています。その後、外来看護師同士でより良い支援の在り方について話し合いを行っています。
なお、以下のような患者さんに介入させていただいております。

1. 在宅での内服管理が難しい方
2. 食事療法やリハビリが必要な方
3. インスリン注射、酸素吸入、膀胱留置カテーテル、経管栄養、創傷処置など医療処置を自宅でも継続して行う方
4. 日常生活動作の低下、認知機能低下、ご家族の状況などによりご自宅での生活にサポートが必要な方
5. 治療や療法の必要性を理解することが困難な方
6. がんなど、病状の悪化や新たな診断により治療方針の変更や選択が必要な方
7. 今後の予測される病状経過に対し、意思決定が必要な方
8. 療養場所の検討が必要な方
9. 介護サービスの調整が必要な方
10. 入退院を繰り返している方



外来と病棟が連携し、適切な在宅支援を提供することが重要です。お困りごと等がありましたら、外来看護師にお声かけください。皆さんがこれからも安心して在宅療養を続けられるよう努めてまいりますので、これからもよろしくお願いします。

(外来 副看護師長 松尾 賢史)



退院直後訪問を実施しています

3階病棟 副看護師長 梶平 望

3階病棟では、退院後も自宅で安心して過ごしていただけるよう退院直後訪問に取り組んでいます。

退院直後訪問とは、退院後に病棟の看護師がご自宅をご訪問し、入院中の指導内容の実施状況や困っていることなどの確認を行います。患者さんが安心・安全にご自宅での生活を継続できるように、ご自宅や施設での療養に対する不安を軽減できるような支援を目指しています。また必要時、退院前に主治医、看護師、理学療法士、栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカーやケアマネージャー、施設職員など院内外の多職種での連携を行っております。

患者さんやご家族の「よりよく生きる」を支えるため

に、多職種で情報の共有や今後の方針について検討しています。お気軽にご相談ください。



季節の飾りつけ始めました ～認知症看護：五感『見る』こと～

4階病棟 看護師長 石丸 亜紀奈

地域包括ケア病棟は、高齢の方の入院も多く、病状が安定した患者さんのリハビリを行いながら、在宅に向けての退院支援や調整を行っています。

認知機能を高めるためには、常日頃から五感を刺激することが大切です。【見る、聴く、嗅ぐ、味わう、触る】といった五感を使うことで、脳にいい影響を与え、活性化すると言われています。また、心地よい刺激は日常生活を楽しいものにし、生きる活力を与えます。認知機能の回復や改善にとっても、外部からの情報を感じ

取れるような工夫や環境の調整が大切です。

そこで、目で見て楽しむ、季節を感じるができるよう、病棟屈指の工作達人が季節の飾りつけを始めました。患者さんがラウンジで過ごされる時には季節の工作を一緒に作成したりしています。ぜひ『目で見て』楽しんでいただきたいと思います。



部屋入り口の飾りつけ



患者さんと一緒に作ったツリー



病棟カウンター



ラウンジ

明るく眺めの良い病棟です

6階病棟 看護師長 今里 純子

6階病棟は、障害者病棟で長期療養中の方もおられ、少しでもリフレッシュしていただくために、季節ごとのレクリエーションや散歩などの計画を立てています。中には外に出ることができない患者さんもおられ、そういった患者さんにも気分転換をしていただくために、車いすやベッドで移動し6階病棟からの景色を楽しんでいただいております。

6階病棟はとても見晴らしがよく、ラウンジからは大村湾を一望でき、天気の良い日は長崎空港につながる橋も見えます。夏にはかわたな夏まつりの花火も見え、昨年も患者さんたちと一緒に花火大会を楽しみました。東側には九州のマッターホルンとも呼ばれる川棚町のシ



ンボル『虚空蔵』が見えます。大きなガラス張りになっていますので、川棚町の四季折々の景色を楽しみながら患者さんと一緒にお話をしたり、リハビリを行っており、明るい病棟で看護師も活き活きと働いています。

6階病棟に来られた際は、ぜひ川棚町の景色も眺めてみてください。



やっと叶った！ 8病棟にコンビニエンスストアがやってきた!!

8病棟 看護師長 福田 綾子

一人ひとりに合わせた生活支援することを大切にしている8病棟に、セブンイレブンの訪問販売が来てくれました。

8病棟は障害のある患者さんが長期療養を目的として過ごされている病棟です。コロナ禍を経て少しずつ規制が緩和される中、患者さんの充実した日常を整えていきたいと考えています。

その1つとして、今回療育指導室を中心に企画したのが「セブンイレブンの訪問販売」です。

患者さんはたくさんの商品を見てスタッフと一緒に選び、楽しく会話しながらの買物の時間を楽しまれました。患者さんからは「久しぶりの外での買物



だった。また行きたい!」「欲しいものを選ぶのが楽しかった!」と喜びの声が聞かれました。患者さんにとっても、スタッフにとっても大切な一日を過ごすことができました。

今後も、患者さん一人ひとりにとって「大切な一日」を過ごしていただけるよう支援していきたいと思

診療科紹介(脳神経外科)

神経センター部長 戸田 啓介

長崎川棚医療センター脳神経外科では、脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など）、頭部外傷、てんかん、脊椎疾患などの診断・治療を行っています。重症の脳卒中や脊椎疾患に対しては近隣の高次医療機関とも連携し、治療体制を整えています。CT・MRIなどの画像診断を駆使し、迅速な治療方針の決定を行います。

また低侵襲手術を推進し、患者さんの負担を軽減する治療法を積極的に採用しています。薬剤抵抗性てんかんやパーキンソン病に対する神経調節治療（迷走神経刺激療法、脳深部刺激療法）等も導入し、これらの疾患に対する治療選択肢を広げています。これらを実施できる県内唯一の施設です。また脳卒中や手術後のリハビリテーションにも力を入れ、機能回復をサポートします。



地域の医療機関とも連携し、患者さんが安心して治療を受けられる環境を提供することを目指しています。どんな小さな不安でもお気軽にご相談ください。

部署紹介(診療放射線科)

RI検査主任 甲 卓馬

診療放射線科は、医師の指示に基づいて放射線を使った検査を行っており、診療放射線技師6名、受付助手1名が従事しています。

業務内容は、X線撮影・ポータブル撮影・X線透視撮影・CT撮影・MRI検査・核医学検査・骨密度測定検査があり、診断に役立つ画像を提供できるように撮影技術の向上に取り組んでいます。また、皆さんが安心して検査を受けられるように放射線被ばくの低減に努め、自己のスキルアップに尽力しています。検査内容や被ばくについて、わからないことがあればお気軽にスタッフにお尋ねください。



編集後記

副臨床検査技師長 森 聖二

春の訪れとともに、新しい季節が始まります。3月は、卒業や新生活の準備など、変化の多い月です。皆さんにとっても、新たなスタートを切る時期かもしれません。ご家族の旅立ちの準備、当院職員においても転勤や退職で忙しくされている方もいらっしゃるのではないでしょうか。

また、この時期は、花粉症や季節の変わり目に健康に注意が必要です。私も数年前から強い花粉症に悩まされ、本当に苦しい季節が始まります。花粉症対策とし

て、マスクやの着用、衣類の花粉を払い落とし、乳酸菌を含む食品を摂取し免疫機能を改善させるといった基本的な対策でこのツライ花粉症を乗り越えていこうと思います。また、皆さまも十分健康を維持するために、定期的な健康チェックを心がけ、毎日を健康で楽しくお過ごしいただければ幸いです。

最後に、これからも、皆さまにとって有益な情報をお届けできるよう、当院の紹介や院内イベントの様子を通じて、日々広報活動に努力してまいります。